

## 日本生体医工学会 平成21年度 第5回理事会 議事録

日時： 平成22年3月19日 14時～17時  
 場所： ガーデンパレスホテル東京 3F 白鳳  
 出席者

会長	副会長	理事										監事	幹事			支部			第49回大会長	事務局										
楠岡	安藤	福井	生田	石原	伊関	小笠原	佐久間	佐藤	砂川	土肥	橋爪	林	堀	牧川	湊	山家	山越	菊池	山口	植野	松村	河原	伊東	田村	岩田	千原	梶谷	廣川	千田	徳山
英雄	謙二	康裕	幸士	謙	洋	康夫	一郎	正明	賢二	健純	誠	紘三郎	正一	方昭	小太郎	智之	憲一	眞	隆美	彰規	泰志	剛一	典	俊世	彰	國宏	文彦	俊二	彰一	久美子
○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○	○

### 配布資料

- 21-5-2 平成21年度第4回理事会議事録(案)
- 21-5-3-① 平成21年度第5回理事会入退会審査対象者
- 21-5-3-② 維持会員からの会費減額願い
- 21-5-4-① 平成22年度収支予算書
- 21-5-4-② 平成21年度収支計算書
- 21-5-5-① 名誉会員推薦の件
- 21-5-5-② 定款変更案と現行の比較表
- 21-5-6-① 第11回臨床ME専門認定士 認定者名簿(新規)
- 21-5-6-② 平成21年度臨床ME専門認定士更新者リスト
- 21-5-7 平成21年度各賞選考状況
- 21-5-8 専門別研究会評価委員会 議事録
- 21-5-9 会長選出規程
- 21-5-10-① 理事・監事および代議員選挙規程
- 21-5-11 生体医工学科連絡委員会(または協議会)の接地
- 21-5-12 臨床工学合同委員会の委員派遣の件(お願い)
- 21-5-13 第8回生体医工学サマースクールの開催について
- 21-5-14 第49回日本生体医工学会大会のご案内
- 21-5-17-② 循環器診療における検査・治療器の使用, 保守管理に関するガイドライン
- 21-5-17-④ 日本生体医工学会中国四国支部規約(案)
- 21-5-18 国際委員会報告
- 21-5-19 生体医工学フォーラム2010報告
- 21-5-20 医用生体工学研究所設立準備委員会報告

## 議事

### 1. 理事会成立の件（総務 湊）

定款に定める要件を満たしている（理事出席 15 名／18 名）ことを確認して理事会成立を宣言した。

### 2. 前回議事録承認の件（審 総務 湊 資料 21-5-2）

前回議事録について修正等があれば事務局に連絡することとした。

### 3-①. 入退会状況の件（審・回覧 会員 資料 21-5-3-①）

入会：正会員 9 名 準会員 2 名

退会：正会員 11 名

全入退会が承認された。

### 3-②. 維持会員からの会費減額願いについて（審・回覧 会員 資料 21-5-3-②）

- フクダ電子(株)から会費減額願いが提出された。

- 5 口から 2 口への変更（21 万円減）が承認された。

この結果、現況は正会員（国内）2,303 名、正会員（海外）42 名、準会員（国内）371 名、準会員（海外）0 名、維持会員 16 社 22 口、顧問 3 名、名誉会員 56 名となることを確認した。

### 4-①. 会計中間報告の件（報・審 財務 砂川・福井 資料 21-5-4-①）

- 収支計算書について資料の説明があった。

- 決算書は持ち回りで最終確認することとした。

- 確認終了後、総会資料とすることとした。

### 4-②. 平成 22 年度収支予算案の件（報・審 財務 砂川・福井 資料 21-5-4-②）

- 議案 1 1 に関連して特別委員会費が 30 万円増で計上されているとの説明があった。

- 予算案が決定した。

- 第 49 回大会の大会関係費が減額になる可能性があるとの連絡があった。

### 5-①. 名誉会員推薦の件（審 総務 湊・伊関 資料 21-5-5-①）

- 福井康裕先生、南谷晴之先生を推薦することとした。

- 菊池眞先生は監事であるため、推薦を一年先延ばしにすることとした。

### 5-②. 一般社団法人化現状報告と定款改定審議（審 総務 湊 資料 21-5-5-②）

- 文部科学省からの指導内容が説明された。

➤ 事務局の所在地に事務局員を置く必要がある。

➤ 現在の場所に賃貸契約を結べば良い。

- 法人移行前に古い定款を改定する必要がある。
- 事務局長について、以下の提案があった。
  - 東京在住の理事の先生に担当いただく。
  - 会長が選出し、辞令を出す。(業務委託)
  - 月1回の頻度で、事務局業務を確認していただく。(監督責任)
  - 本案であれば、現在の体制で良い。
- 定款改定について以下の通りとする。
  - 6月の次回総会で定款の変更を認めていただく必要がある。
  - 代議員制なので評議員が定数を満たせば成立する。
  - 欠席予定の評議員から委任状を得る必要がある。
  - 総会前に評議員にも定款改定案を送付する。
  - 定款改定案は原案をベースとし、若干の変更は会長一任とする。
  - 社団法人に代わる次点でもう一度変更が必要になる。
- 本件に関連して以下の議論があった。
  - 学会が財政破綻をした場合に、理事または事務局長に責任が問われることはないか。
  - 理事個人への責任は、よほど大きな瑕疵がない限り起こらない。
  - 学会の基本財産を整理して解消する有限責任であるので、心配はならない。
  - 名誉会員の扱いが、総務省と文科省で指導が異なる印象がある。

6-①. 第11回臨床ME専門認定士の認定の件(報 ME 技術教育 石原 資料 21-5-6-①)

- 70名を新規に認定した。

6-②. 平成21年度臨床ME専門認定士更新の件

(報 ME 技術教育 石原 資料 21-5-6-②)

- 23名の更新を認定した。
- 認定は累積で600名にのぼる。
- 認定の方針について以下の説明があった。
  - 当学会と医療機器学会が共同で認定。
  - 臨床をしていた人が教員になった場合でも、過去5年以内に臨床経験があった場合は認定としたい。
  - 内規を変更する。
- 臨床工学技士(CE)と学会大会との関係について以下の説明と討議が行われた。
  - CEの学会参加はポイント追加で、必須要件にはなっていない。
  - 大会中のCE講習会(有料)には会場を貸しているだけで、本大会には参加していない。

- 医療機器学会でも場所貸しのような形でサービスをしている。
- CE は勤務の関係で土曜日しか参加できない。
- CE にとって興味のあるセッションがない。彼らの勉強になるセッションを作る必要がある。
- 当学会の研究に何の興味もないこと事態に問題がある。
- アカデミックな部分に焦点が絞られているので、そうなっても仕方ない。
- 専門認定制度が発足した歴史的経緯について説明が行われた。
  - 安全とスキルアップをするために教育認定することが目的。
  - 社会のニーズに合わせて教育してきた。
  - 本学会と医療機器学会の 2 学会の下で運営している。
  - 生体医工学会から進言して通ることではない。
  - 修理業の認可を得るために認定を受ける必要がある。
- CE 講習会等に関する学会の体制について討議が行われた。
  - 学会がサポートする体制は必要。
  - 更に、CE さんに学会に参加していただく道を探す必要がある。
  - 生体医工学会では実践の場に役立つ情報提供をしていない。
  - 大会長が調整するのではなく、CE の教育委員会担当理事が中心になって大会プログラムに関与して申し送る必要がある。
  - 現在は CE 委員会が仕切っている。
  - 理事が委員長になるべき。
  - 学会本体が主催する位置づけにする必要がある。
  - NEDO の問題も同じような形になっている。
  - 学会本体にアクセスできる窓口を作る必要がある。
  - CE 委員会で議論し、医療機器学会にも検討して貰う必要がある。
  - 予算の問題もある。

#### 7. 平成 21 年度選奨各賞選定状況の件（報 選奨 橋爪 代事務局 資料 21-5-7）

- 論文賞、荻野賞を審査中。
- 荻野賞は 3 月末を目処に決定する。
- 研究奨励賞は、選定結果の通知書を作成する。
- 4 月中旬に全て決定し、報告書を持ちまわりで審議する。

#### 8. 専門別研究会について（報・審 学術 生田 資料 21-5-8）

- 全専門別研究会が承認された。
- 3 研究会が終了し、4 研究会が新設された。
- BME on Dementia 研究会には、連絡の取れやすい委員の選任を依頼した。

- 音楽とウェルネスの学際的融合に関する研究会について、公認会計士から「研究会補助金を非会員の学会参加費に使用するの是不適切である」と指摘された。
- 大会中に幹事または委員長に必ず出席して貰い、上記を伝えてはどうか。
- 研究会が予算を受け取らないことは問題なく、その場合、決算報告書の提出は不要である。

9. 次期会長選出の件（次期会長選出委員会結果報告 資料 21-5-9）

- 次期会長に田村俊世先生が選出された。

10-①. 次期副会長選出の件（報・審 総務 湊 資料 21-5-10-①）

- 副会長 1 名に、砂川賢二先生が選出された。
- もう 1 名の副会長は、千原國宏先生にお願いする予定である。

10-②. 平成 22・23 年度監事選出の件（報・審 総務 湊）

- 平成 22・23 年度監事は、橋爪誠先生にお願いする予定である。

11. 生体医工学科連絡委員会（または協議会）の設置（審 林 資料 21-5-11）

- 提案の経緯が説明された。
  - 生体工学科の入試苦戦。
  - 定員割れを起こした学科もある。
  - 認知度が低いのが問題。
- 「協議会」の名称が規約にないため、「特別委員会」という名称にて承認された。
- 予算 30 万円は既に計上済み

12. 臨床工学合同委員会の委員派遣について（報 楠岡 資料 21-5-12）

- 持ち回り審議の結果が報告された。
- 委員を派遣することが決定した。
- 派遣委員に林紘三郎先生が選出された。

13. 2010 年度生体医工学サマースクールの実施について（審 教育 牧川 資料 21-5-13）

- 開催の主旨と計画内容が説明された。
  - 日程：2010 年 8 月 6 日（金）～8 日（日）（予定）
  - 場所：立命館大学スポーツ健康科学部
  - 内容：運動計測、健康計測に関する講演、ならびにスポーツ健康科学部の設備を使った講習
- 開催が承認された。

- 企業研究者の参加費については、検討することとした。

14. 準備状況報告（報 第49回大会 千田 資料 21-5-14）

- 準備状況が報告された。
  - 会期：2010年6月25日（金）～27日（日）
  - 場所：大阪国際交流センター
  - テーマ：Revolution ME
  - 特別講演：2、JAPAN Original：1、シンポジウム：16
  - OS：8、PD：3、チュートリアル：2、モーニングセッション：1
  - コメディカルセッション：1、ワークショップ：1
  - 一般演題：417
- 次回の理事会の予定が説明された。
  - 日程：2010年6月24日（木）
  - 場所：シェラトン都ホテル（予定）

15. 準備状況報告（報 第50回大会 土肥）

- 口頭で準備状況の説明があった。
  - 東大工学部2号館、如水会館で開催の予定
  - 米国から講演者を招請する
  - 寄付金の募集はこれから

16. 第51回大会について（審）

- 新会長（田村先生）が次回の理事会までに検討することとした。

17-①. 協賛等の状況（資料回覧）

- 回覧資料に基づき承認された。

17-②. 循環器病の診断と治療に関するガイドラインについて（資料 21-5-17-②）

- ガイドライン作成の経緯が説明された。
- 授業等の参考資料にして欲しいとの要請があった。

17-③. NEDO との打ち合わせについて

- 事務局（学会窓口）と NEDO の窓口と打ち合わせした。
- 覚え書きを作成する。
  - 窓口、次期、予算について記載する。

17-④. 日本生体医工学会中国四国支部規約（案）（資料 21-5-17-④）

- 改正案が説明され、承認された。
- 3月19日から成立する。

18. 国際委員会報告（報 佐久間 資料 21-5-18）

- 議論の概要が報告された。
  - IFMBE との関連について
  - 日本生体医工学会の国際化について
- 以下の意見があった。
  - 国際化の必要性は認識している
  - M から見ると遅れている印象
  - M 系は欲しい装置を作るのではなく、ユーザー側になっている
  - 学会誌の国際化をして欲しい
    - ◇ 英文誌一本化なら Elsevier か Springer など
    - ◇ IFMBE とも絡む
    - ◇ IFMBE は Springer から雑誌を出している
- 引き続き検討していくこととした。

19. 生体医工学フォーラム 2010 報告（報 佐久間 資料 21-5-19）

- 生体医工学フォーラムの開催結果について報告があった。
  - 日程：平成 22 年 3 月 3 日（水）9:50-17:20
  - 会場：日本学術会議講堂
  - 来場者数：111 名

20. 医用生体工学研究所設立準備委員会報告（報 佐久間 資料 21-5-20）

- 以下の報告があった。
  - 研究所としてどのような機能が求められるかについての議論の概要
  - 今後の活動について
- 研究所設立に関して以下の意見があった。
  - 医薬品機構も巻き込んでどうか
  - 箱物も必要
  - 予算規模が重要
  - 例えば 2010 年 3 月 31 日で営業終了となる「私のしごと館」の場所や敷地を利用する案はどうか
  - 維持費にどういう費用が必要なのかも算出する必要がある
  - 予算規模を一桁上げる方が採択され易い

- 具体的な例を 5～6 件出して記述してはどうか
- 佐藤俊輔先生が作成した過去（10 年前）の報告書があるので参考にすると良い
- 上記報告書では具体的なテーマを記載していた
- 報告書は梶谷文彦先生が学術会議に出したのではないか
- 今後の活動について以下の通りとなった。
  - 継続審議を行う
  - 委員構成を変更する件が承認された
  - 委員長は佐久間先生が担当する
  - 構成委員は委員長に考えて貰う

## 20. その他（事務局）

- 平成 20 年度の決算書をもとに、内閣府へ一般社団法人として提出する際の書式に倣って書類を作成した（資料 21-5-5-②）。
- 出版事業、学術集会・セミナー事業、学会賞褒賞事業、研究委員会事業は公益事業（赤字）となる。
- 試験事業は収益事業となる。
- フォーラム、サマースクールについても、収支を報告して貰う必要があるので協力をお願いしたい。
- 試験事業に関する問い合わせの結果、以下の回答があった。
  - 5 千万の積立金は問題がない
  - 証憑に関して 1 枚のシートに署名・捺印をし、本体と規定に同じすることは問題がない
- 試験事業については事務作業が繁雑になる恐れがあることから、試験委員会と事務局でつめることとした。